

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0391300027
法人名	医療法人 青松会
事業所名	グループホーム さくら
所在地	岩手県二戸市石切所字森合31番地 (電話) 0195-23-5121

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年2月21日	評価確定日	3月26日

## 【情報提供票より】(平成20年2月9日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 7月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 7.2 人

## (2)建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	食材料費に含む 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要( 2月 9日現在)

利用者人数	8 名	男性	4 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	- 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 87.1 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 青松会 二戸クリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、二戸駅に程近い住宅地と商店が混在する中にあり、母体である医療法人が運営する、二戸クリニック・訪問看護ステーションとともに同一敷地内に立地している。クリニックと隣接していることもあり、医療や緊急時のバックアップ体制が整っている。施設がやや手狭などハード面での制約はあるものの、全職員でいろいろと工夫しながら対応している。事業所は1ユニットの単体であり、職員の異動もなく、開設時職員の退職もなく、全職員気持ちを一つに前向きに取り組んでいる様子が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の自己評価・外部評価の改善点を少しずつ皆で考え取り組みを行ってきた。「課題はまだあると思うが、自分たちなりに努力している。」と前向きで真摯な姿勢が感じられた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価課題等における取り組みは着実に取り組まれている状況が感じられたが、今回の自己評価の取り組みは管理者の意向が多く出たようなので、今後は全員で役割分担等をして振り返りをするなど、自己評価の方法について検討して欲しい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議メンバーの民生委員や町内会長は、積極的に事業所の報告や活動状況を聞いて意見を述べてくれる。また同じくメンバーである地域包括支援センターの方とも連携が取れている状況である。メンバーに恵まれた状況の中で、更に多くの意見交換ができる有意義な場として活用して欲しい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	敬老会の時など家族に集まっていたり、意見交換を行っている。また、個別に家族の訪問があった時などにも話しやすい雰囲気、環境を作るように配慮をし、お話を伺っている。意見箱も玄関に設置している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	秋ごろに行われる地域のお祭りに参加したり、駅前でされるトリコロールフェスタというイベントにも行っている。また運営推進協議会メンバーでもある民生委員の方が支援している障害者団体の催し物を見学させていただくなど、近隣の団体などとも交流がある。地域の方に気軽に立ち寄り頂けるような環境づくりやイベントを企画するなど能動的な働きかけも期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を基に、職員で話し合いグループホームの特徴を加味して「倫理規定」として創りあげている。利用者、家族の意思を尊重し、利用者本位の内容となっている。今後は、広く地域密着型としての理念も加味していくことを望みたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示するとともに、連絡ノートの裏表紙に明示し、毎日確認できるようにしている。職員会議で確認しあい、職員それぞれの目で振り返りをし、ケアプランに反映させるようにしている。その人の思いを大切にし、満足のいく生活を作っていけるような支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在は地域のイベント、祭りや障害者団体の催し物の見学に参加すること等を中心に取り組んでいるが、地域との交流が少ないと感じている。	○	地域に出向いての行事等への参加はうかがえるが、町内会等へのアプローチ、広報の作成回覧、ボランティアの受け入れなど、積極的に地域との交流を図るべき時期が到来していると思われることから、今後計画的・能動的な取り組みに期待したい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価時の課題については、職員で話し合い解決に向けて前向きに取り組んできたが、まだ一部に取り組みが必要などがある。今回の評価については、管理者が中心となり職員の意見を個別に聞きながらまとめあげている。	○	評価の意義について確認し合うとともに、自己評価作業には役割分担するなど全職員が係わりを持ち、全職員が共有する自己評価となるような取り組みに期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市地域包括支援センター、町内会長、民生委員、家族代表、法人理事長・理事及び管理者を委員とし、2～3ヶ月に1度の開催としている。会議の内容は事業所の活動内容の報告が中心である。今後は、意見・提案等が多く出るような会議にしていきたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、市町村主催のケア会議(計画作成担当者出席)が開催されており、困難ケース等を持ち寄り検討する機会がある。書類の提出や報告などは、役所に足を運び顔を合わせる機会を持つよう心がけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族用の広報紙を作成し送付するとともに、面会時に生活の様子を説明し現金出納帳及び預り金の確認と署名をいただいている。また、面会ノート(個人用)に日々の暮らしぶりや出来事などを書き込み、家族に見ていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員に家族代表をお願いし、意見を頂く機会を設けているほか、敬老会などの行事の案内をし、家族との話し合いの場も設定している。意見箱も玄関に設置しているが、開設以来投書はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在までのところ、職員の異動及び退職者はいないので、安定したケアが行われている。(単独事業所であり、異動はない。)		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の研修システムや具体的な計画はないが、職員の現状や力量にあわせた指導・助言に努めているほか、外部の研修などにも職員の希望等を聞きながらできる限り参加させスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の県及びブロックの会合や研修が交代で毎月1回開催されるので、交代で参加し積極的に交流や学習をしている。他ホームとの交換研修もできれば実施したいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームを見てもらうことを優先している。施設からの入居の方には、数回の訪問をくり返し馴染んでもらうように努めている。納得のうえで利用開始になっても、入居してから暴力行為などもあったりしたが、その方と対話することで穏やかになり、落ち着くことができた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各利用者の得意なもの生かすように、声かけや働きかけに工夫をしている。方言や歌などを教えてもらったり、食材切り、お茶いれ、配膳、お絞りたたみなどのできる事を、自分の仕事として手伝ってもらい、お互いに支えあう関係をつくるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集にはセンター方式を採用し入居前・入居後とも、とにかく係わり・話を聞いてともに生活できるよう心がけている。家族の協力も得て本人の思いを汲み取れるようにしている。帰宅欲求の時は散歩、食事欲求にはおやつ等、希望を満たすようにつとめ、家族との連携を大事にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見やアイデアを基に個別計画を作成し、家族から計画書の内容に関する意見をもらっている。その上で、面会時に確認の署名をいただいている。家族の意見を優先にと考えているが、計画への意見は少ない状況である。	○	介護計画の作成にあたり、職員間の話し合いによる策定も大切ではあるが、利用者の思いや家族の意向、医師等の意見を事前に確認し、それを踏まえた上での作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、計画の見直しをしている。現状変化の場合は入院となるケースが殆どであり、しかも入院継続や施設への変更となり、現在、途中で計画見直しとなったケースはない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援や地域包括支援センターとの連絡調整など、柔軟に対応している。ホーム退所時の施設紹介や、退所後も家族からの相談があれば、対応をしている。今後3年を経過したならば、ショートステイ等も考えていきたい。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は家族対応としているので、連絡を密にしている。受診状況等は口頭での申し送りであるが、その内容を連絡ノートに記載している。また、かかりつけ医を隣接するクリニックへの変更を希望する家族もあり、希望に従っている。クリニックとは連携をとっており対応へも協力を得ている。		現在家族からの希望はないとのことであるが、重度化や、突然の出来事等にも対応すべく、今後、ホームの限界も見極めながら、取り組みのあり方について十分に検討することを期待したい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設の構造上、医療的な対応には難しい点もあるが、日常のレベル低下にはできるだけ対応したいと考えている。医療対応が必要な場合は、隣接するクリニックの対応が24時間体制で利用できるようになっている。	○	家族の意向を確認するとともに、研修・学集会の実施や指針の策定などへの取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人等の記録類は基本的に事務室のロッカーに保管している。声かけ等のマニュアルはないが、開設時研修で全員で学習したほか、新任には同じ職員が指導し、プライバシーの確保に留意している。	○	プライバシー確保の問題は、対人サービスに携わる者にとっては注意深く扱う事項であり、職員共通認識による対応のあり方等を共有できるものとしてのマニュアルを検討・作成することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やトイレ等の基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。その日その日の希望や気分に合わせて、趣味ややりたいことで過ごせるようにしている。突然の外出等にも、できるだけ職員の調整をして対応するよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や配膳、後片付けなどできることは職員と一緒にいき、利用者・職員と一緒に穏やかに食事をしている。テーブルに着かない方には適宜対応するとともに、介助の必要なときにはそれとなく実施している。なお、献立はクリニックの栄養士が作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴は可能であるが、曜日を特定しての対応が必要な方がいることから、一応個人ごとの入浴の曜日を決めている。入浴拒否をする方には、タイミングを見て毎日勧めている。入浴しない方は毎日足浴をしている。バイタルチェック表があり、管理者、計画作成担当者、担当で入浴可否の判断を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの趣味(歌や塗り絵など)を大切にしている。野球の好きな方は以前に、キャッチボールをしていたこともある。日常生活上の役割は、箸やお絞りの準備、食器洗い、洗濯物たたみなど自然発生的にできており、楽しみながらやっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時々に応じ散歩等の対応をしている。近所の店に果物を買に行く方や、呉服屋さんに出かけてお話をする方などがある。毎月7日と20日には、二戸駅に隣接した物産館で「なにやーと夜市」が開催され、希望者は出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関にチャイムを設置し、出入りが確認できるようにしている。夜間は防犯・安全のため、22:00~6:00頃まで施錠している。外出したい方がいるときは、同行するなどできるだけの対応をしている。なお、各部屋にも鍵はあるが、使用する方はいない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難・防災訓練は3回実施し、うち1回(7月)は消防署立会いで指導を受けている。他2回は事業所独自に、春と秋に実施している。非常時の備品等は備えていない。	○	避難訓練は実施しているが、いずれも日中の訓練であることから、勤務者が1人となる夜間想定訓練を実施することが望まれる。加えて、非常時用の備品等についても、今後検討のうえ準備しておくことも重要である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・栄養については二戸クリニックの栄養士が担当し、食材も配達してもらっている。食事については残量チェックをし、業務日誌に記載している。水分は1日750cc以上摂取するようお茶を用意している。(150ccを5回以上)食欲が無いことが続いた場合は、二戸クリニックに相談・受診をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく、採光がとても良い。陽の光が多い日には居間が暖かい。ソファやテレビも置かれ、自由に使い、思い思いのところで休んでいた。オープンキッチンになっており、食事の準備をしている風景が分かりやすく、利用者も手伝いやすい環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の持込を家族に働きかけてはいるが、居室には必要最小限の物が置かれていた。利用者の中には、すぐに家に戻るといふ思いで、ダンボール箱に荷物を入れたままの方もいたが、そのスタイルを維持することで気持ちを保つ配慮をしていた。		